

オリンピック・パラリンピック開催、障害者スポーツに関する世論調査の集計結果について

世論調査概要

調査目的：東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会や障害者スポーツの認知度を把握することで、大会の成功と障害のある人もない人もともにスポーツに親しむことができる環境を整備するうえで参考とするため

調査対象：満18歳以上の男女混合（平成27年調査まで「満20歳以上」を対象）

有効回収標本数：1,907標本/3,000標本（63.6%）

調査方法：個別訪問面接調査

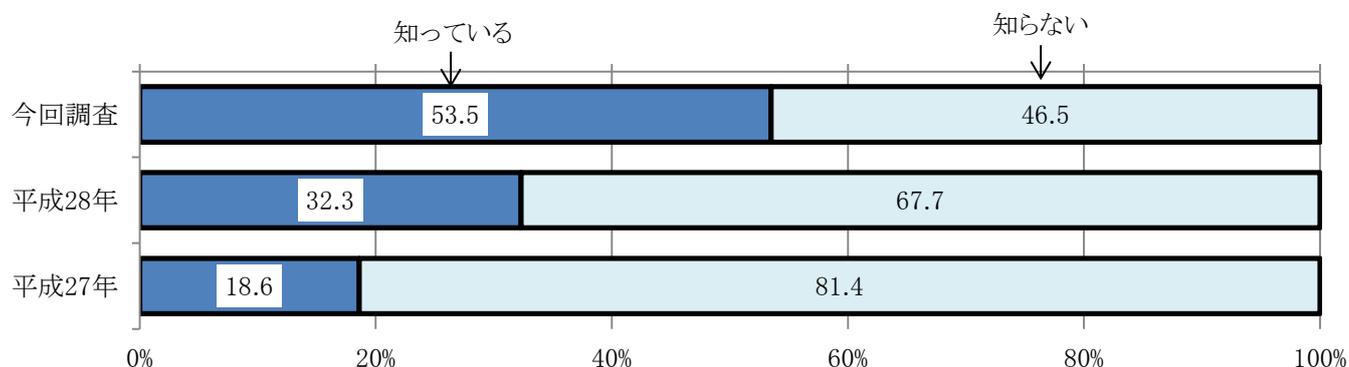
調査期間：平成29年9月1日～平成29年9月17日

公表日：平成30年1月30日

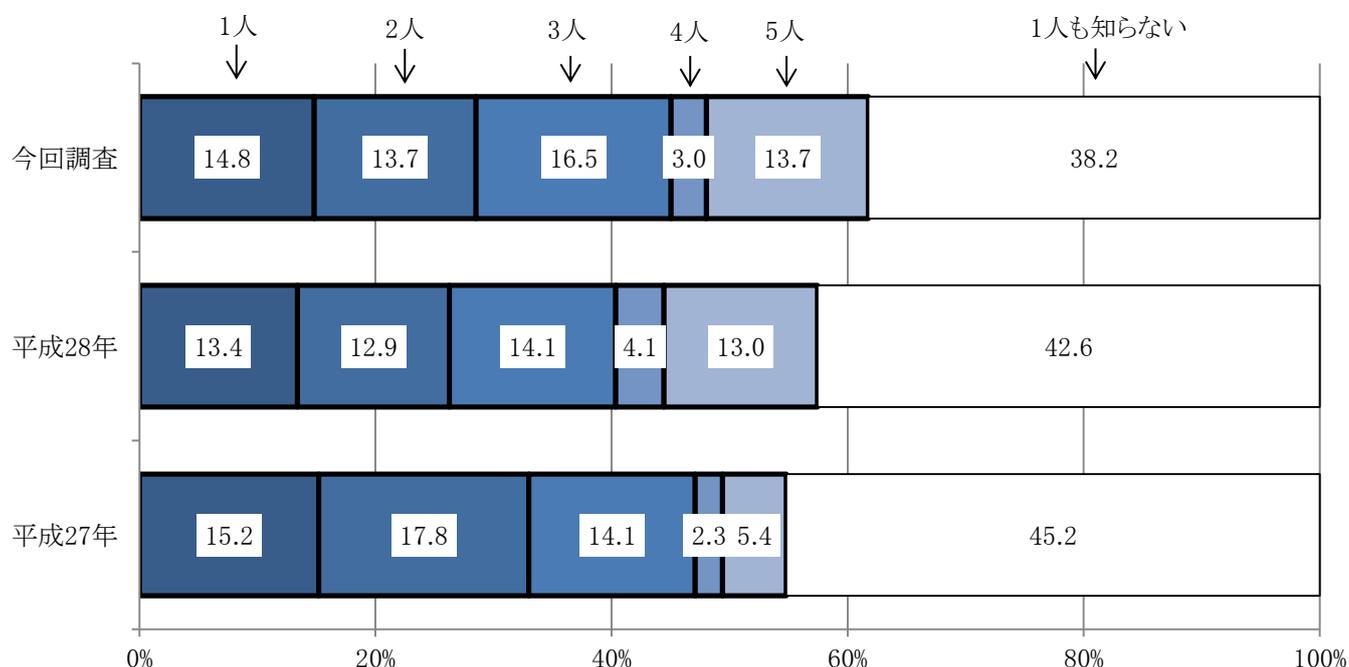
●パラリンピックに関する認知度

アギトスの認知度は53.5%（前回調査から21.2ポイント増）

Q あなたはパラリンピックのシンボルマーク（アギトス）を知っていますか。



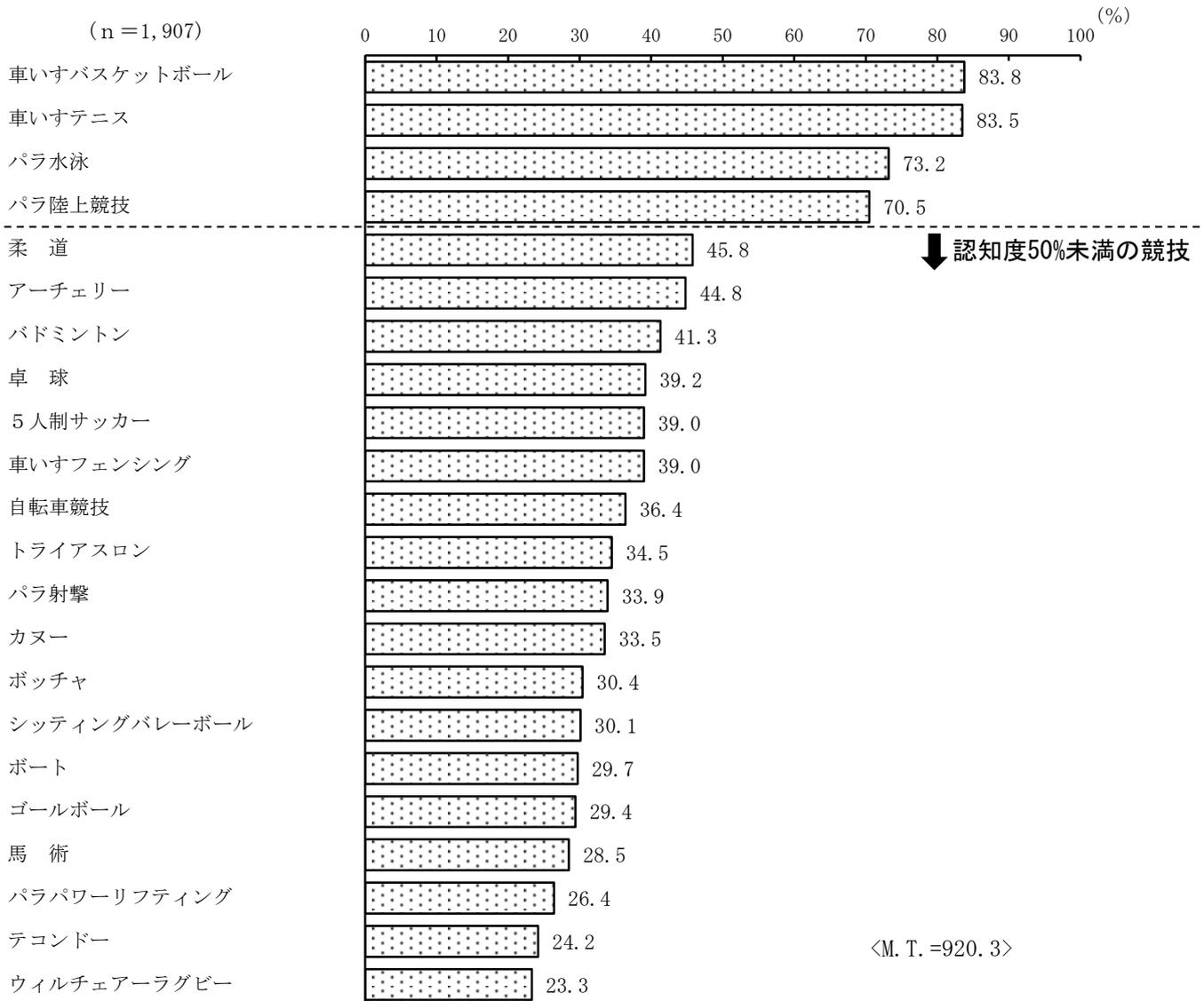
Q あなたはパラリンピック選手を何人知っていますか。



- アギトスの認知度は毎年着実に増加しており、平成27年から35ポイント増加
- パラリンピック選手を1人以上知っている都民は61.7%と毎年増加

東京2020パラリンピックで実施する22競技のうち18競技は認知度が50%を下回る。

Q 東京2020パラリンピックで実施する競技を知っていますか。



○ オリンピック競技に比べ、パラリンピック競技の認知度は、まだ低いのが現状
(東京2020オリンピック大会で実施する33競技のうち32競技は、認知度が50%を超えている)

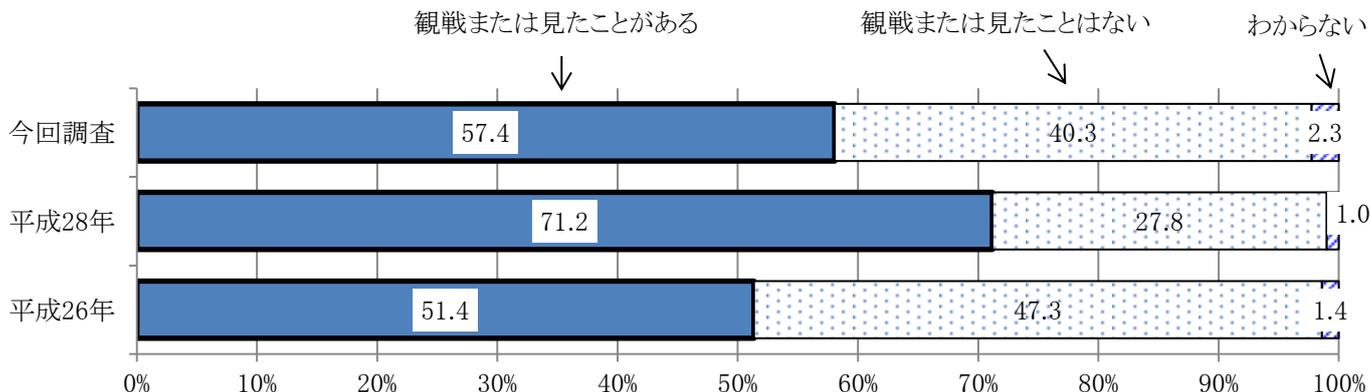
【参考】オリンピック競技の認知度

| 競技 | 認知度 (%) | 競技 | 認知度 (%) | 競技 | 認知度 (%) |
|-----------|---------|------------|---------|------------|---------|
| 水泳 | 97.0 | テニス | 76.5 | トライアスロン | 62.8 |
| 陸上競技 | 95.7 | サッカー | 76.4 | ラグビー | 61.0 |
| 柔道 | 94.9 | バスケットボール | 75.9 | ハンドボール | 60.3 |
| 体操 | 92.4 | カヌー | 75.8 | サーフィン | 58.5 |
| レスリング | 90.1 | 射撃 | 74.9 | ゴルフ | 58.3 |
| 卓球 | 89.5 | ウェイトリフティング | 74.6 | スポーツクライミング | 57.1 |
| バレーボール | 87.7 | ボート | 70.5 | ホッケー | 55.0 |
| バドミントン | 85.8 | 馬術 | 70.0 | テコンドー | 55.0 |
| フェンシング | 81.8 | ボクシング | 68.5 | スケートボード | 50.6 |
| 野球・ソフトボール | 80.5 | 空手 | 66.8 | セーリング | 50.2 |
| アーチェリー | 80.3 | 自転車競技 | 63.5 | 近代五種 | 43.2 |

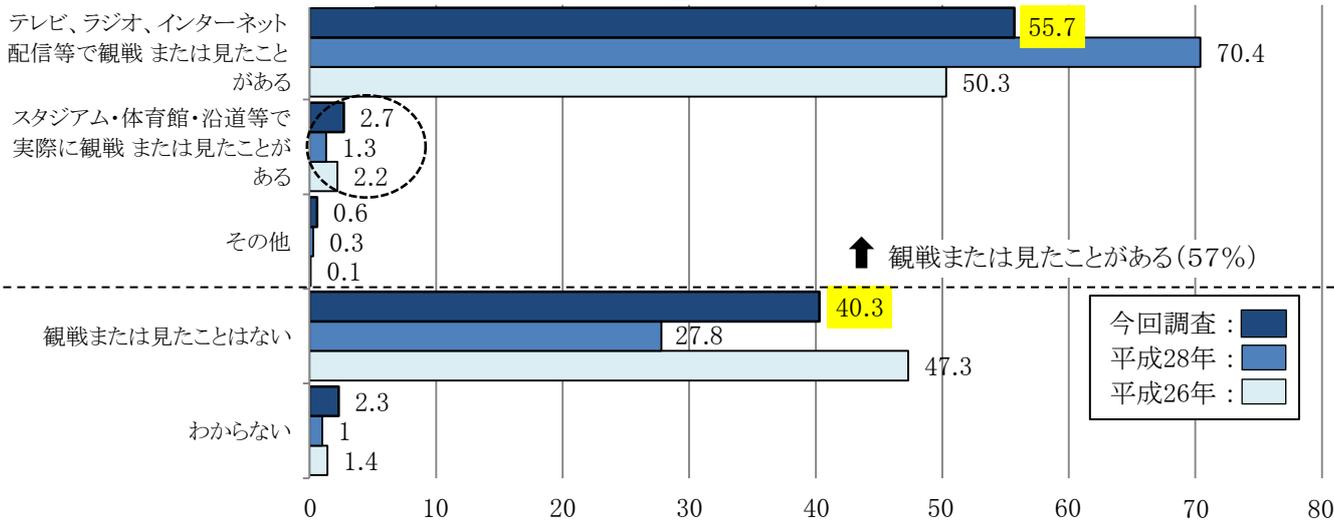
●障害者スポーツやパラリンピック競技の観戦

競技を観戦または見たことがある人はリオ大会のあった前年と比較して**13.8ポイント減**

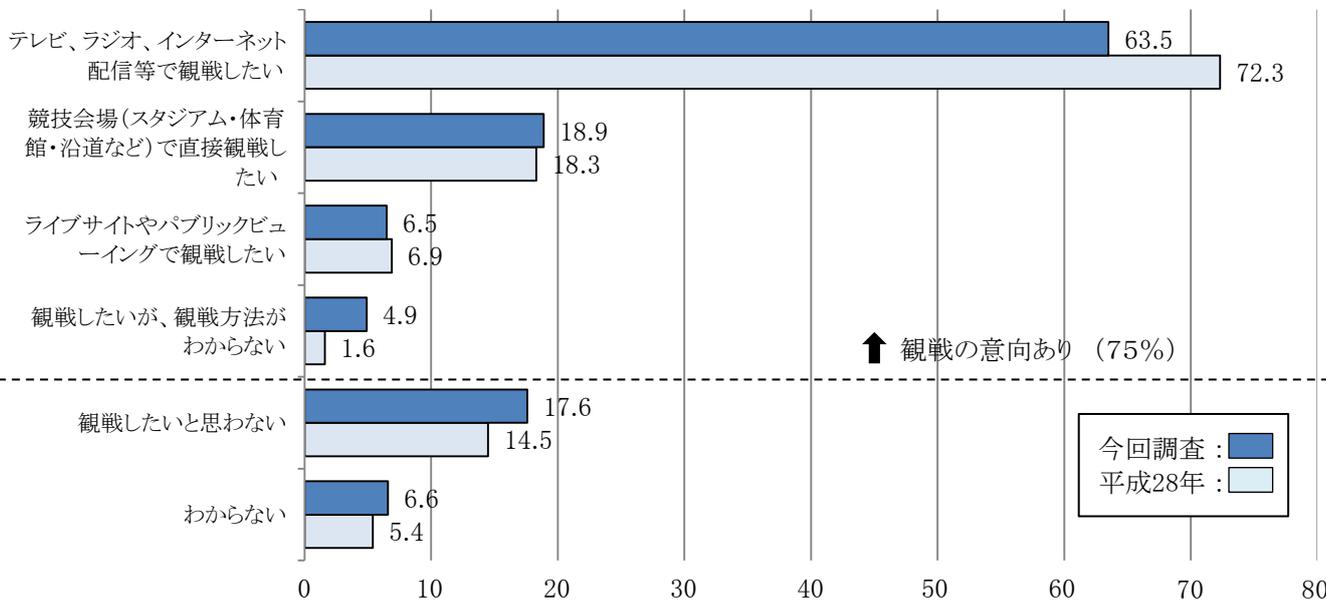
Q あなたはこの1年間に障害者スポーツやパラリンピック競技を観戦または見たことがありますか。



【観戦または見た方法】



Q あなたは、東京2020パラリンピック競技大会をどのようにして観戦したいですか。

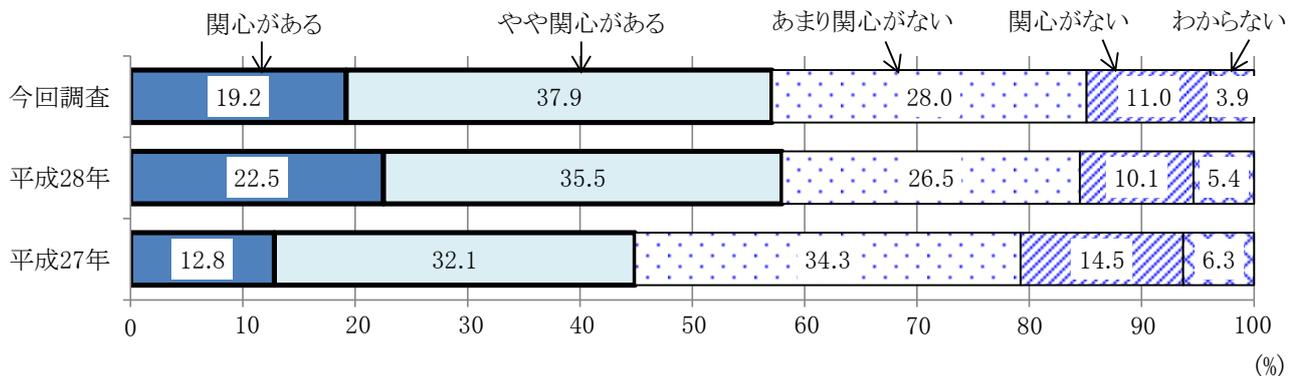


- スタジアム等で実際に観戦した人は変化が見られない
- 東京大会の観戦意向を持つ都民は約75%であり、競技会場での観戦意向は約20%である

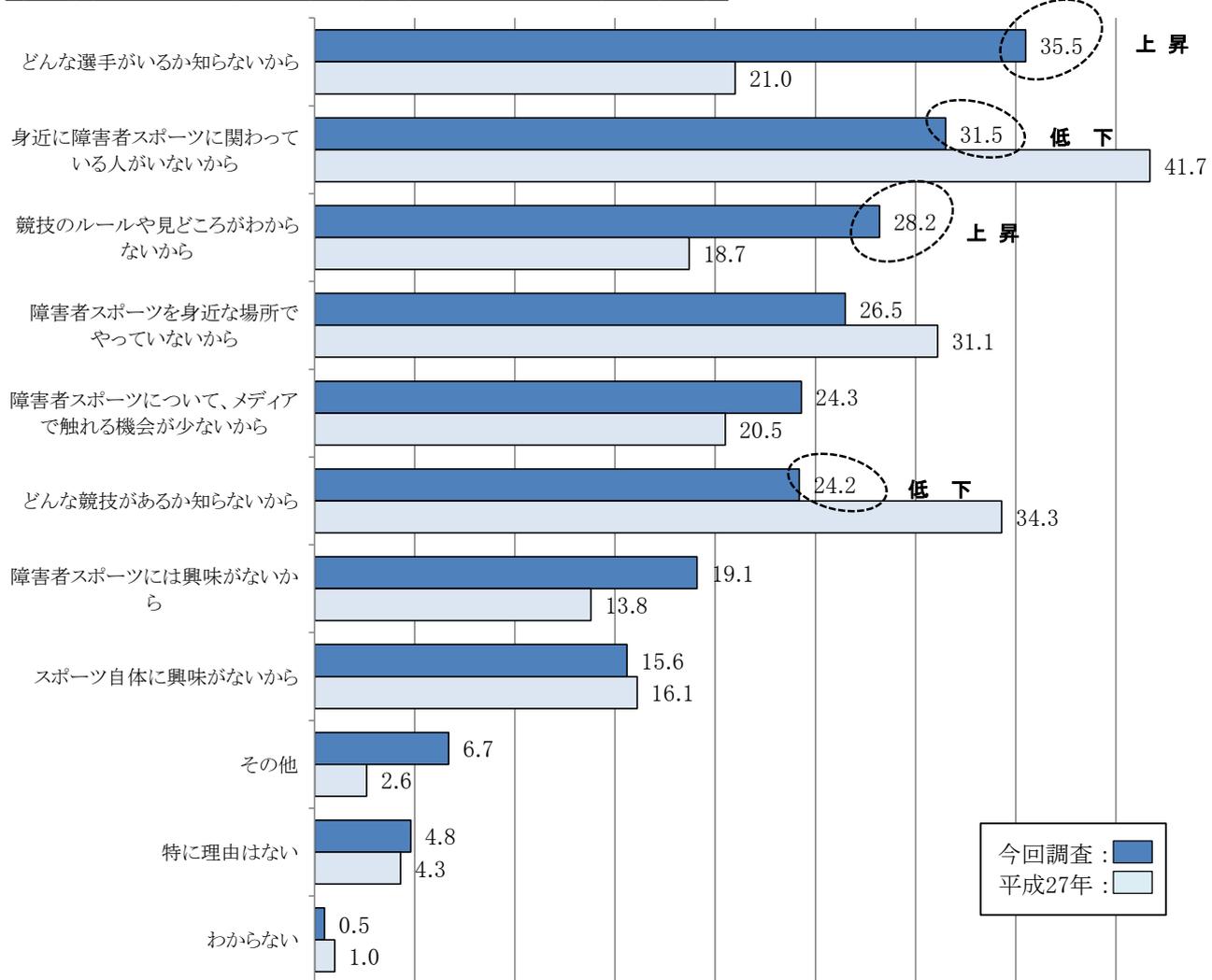
●障害者スポーツへの関心

障害者スポーツの関心度はリオ大会後も維持。さらなる関心向上には選手の情報発信が必要

Q あなたは、障害者スポーツに関心がありますか。



Q (関心がないと答えた人に) 関心がない理由は何ですか。



○ 関心がない理由として、「身近に障害者スポーツに関わっている人がいないから」、「どんな競技があるか知らないから」が低下した一方、「どんな選手がいるか知らないから」が上昇。

※ 平成28年は「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査(平成28年9月調査)」、平成27年は「都民生活に関する世論調査(平成27年8月調査)」、平成26年は「都民のスポーツ活動に関する世論調査(平成26年10月調査)」